

「徳を高める言葉」 ～教会のたて上げ～

ローマ15：1～5

Ⅱペテロ1：5～9

日本人は先に進むことが苦手な国民性を持っています。誰かが前にいないと不安になってしまいます。私たちクリスチャンはイエスキリストが先駆けとなってくれます。ですから不安になり、前に進めないのは目の前にイエスがいない事になってしまいます。ですから神がせよと言われた事に対して率先していきましょう。「キリストでさえ、ご自身を喜ばせることはなさらなかったのです。むしろ、あなたをそしめる人々のそしりは、わたしの上にふりかかった。」と書いてあるとおりです。(ローマ15：3)これがイエス・キリストが十字架の上でしたことです。だから神様は今日私たちに、自分の問題で苦しむのではなく、力あるものは、力のない人たちの弱さを担い、隣人の「徳を高める」行動することを求めています。今回のテキストでは徳を高めるという言葉が出てきます。この原語的な意味は良い建物を建てなさいという意味です。相手に対して徳を高める事は相手の建物を建てる事を意味します。外見の建物ではなく、心を立てあげる事、すなわち一人ひとりの教会を立てる事を意味しています。この徳という言葉の意味は、一般的な人よりも優れた能力を持っている事を用いて周りの人々に良い影響を与える事を意味しています。持っているだけでは徳とはなりません。それを周りに表すことにより、初めて徳となります。それを教会では「信仰」「希望」「愛」という3つの言葉にまとめられていて、一般的な人よりも、信じる心が勝っている、神への望みが勝っている、隣人を愛する心が勝っている行動を表していくのです。それが周りの人の建物を建てあげる行動となる事を神は願っています。しかし、私たちは悪気はないが、相手の建物を壊している言動に気をつけなければなりません。そして意識的にも、無意識的にも相手の徳を下げることを悪徳とよんでいます。その悪徳とよばれる中に、①愚昧②無節操③臆病④貪欲があります。キリスト教では①不敬②絶望③憎悪があります。①愚昧とは愚かで道理に反する事となり聖書を知っている私たちは聖書に反する事です。②無節操とは一貫性がない事です。人や周りに合わせてコロコロと自分を変えてしまう事です。③臆病とはちょっとした事で慌てふためき、右往左往する事です。④貪欲とは必要以上を求めてしまう事です。そしてキリスト教では①不敬とは神へ尊敬の念を持たず、礼儀にはずれることです。②絶望とは神への希望を失い、全く期待できなくなることです。③憎悪とは他人やその人の言動・態度が、自分にとって不快であるだけのみならず、自分の人格や尊厳を傷つけるものとして許しがたく、そうした行動が既に取り消しがたいものであればその他人の存在そのものに対しても激しく憤りを感じ、なんらかの報復を試みたいと考えること、あるいはそういう感情。場合によっては、違法であることはもとより、傷害行為といわれようと復讐したいと思うような憎しみとあります。この憎悪には注意が必要です。相手が良くなってほしいという思いから言動するのではなく、傷つけられた自分を守るために相手を破壊する行動になっていないのでしょうか。ここで哲学ではどのようにするのかを考えて「中庸」という考えが生まれました。中庸とは極端にならず、行き過ぎた行動をしない事です。その時に必要な事が思慮です。この思慮深さがないと相手を傷つけてしまいます。相手に対してよくなってほしいという思いをどのように伝えるのかそれには知恵を思慮深さが必要になります。徳とはおだてることではありません。相手の建物が立てあげる事を意味していますので、間違っているのであれば、伝えることも含まれます。従って知恵と思慮深さが必要になるのです。Ⅱペテロ1：5～9ではこのことがまとめられてあります。良い建物を建てるために必要な事として①一貫性、無節操になってはいけません。②立てあげる思いをもちましょ。相手を否定をするから、受け入れらず憎悪になってしまいます。そうならないために相手に対して徳を高め、良い建物を建てあげるようにしましょ。ソロモンが成功したのは箴言4：1～8にあるように相手に対して徳を高めるような思いをもっていたからでした。そのためには③知恵を求めることが大切になります。相手を理解し良い建物を建てあげるのには知恵が必要です。知恵とは神から与えられるものです。いつでも神に求めていきましょう。目の前にいる人に対してどのような知恵を持って接するのか。相手と敵対して疲れ果てるよりも徳を高めるために、思慮深くし、知恵を伝えましょ。思慮深いとは相手に対してどのように伝えたら受け入れてくれるのかを考えていくことです。そこにも知恵が必要になります。コロサイ3:16「キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住まわせ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、…」とあります。聖書の言葉を私たちの土台に据えて一貫性のある信仰生活と、知恵を求めて祈っていきましょう。